

# 第 2 回検討部会のご意見を踏まえた 整理について（案）

令和 4 年 1 月 2 2 日

北海道環境生活部自然環境局  
野生動物対策課ヒグマ対策室

# **1 第2回検討部会の意見**

## 第2回検討部会の主な意見の概要

### <検討対象>

- ・ 検討対象の整理は、場所（土地利用形態）ごとに整理し方がわかりやすい。
- ・ 高密度生息地とその周辺の被害の多さはイコールになっていないので、高密度生息地に隣接するという設定は如何なものか。
- ・ 目的は、人を恐れさせる学習を与えることか、人里の近くに生息する個体の低密度化か、整理しておくべき。
- ・ 目的によって、捕獲個体の性別、穴狩り、親子づれの捕獲対応も変わる。

### <効果の検証>

- ・ 検証は、全道的に広く検証するほか、詳細なデータがあってある程度の捕獲圧をかけた地域を対象にモデル的に分析するのもよい。
- ・ 検証方法は、人を恐れない行動を取る問題個体の増減や人の生活圏への出没などが考えられる。

### <捕獲対応の現状>

- ・ 問題個体の判断が難しい。その該当性について意見が分かれる。線引きがよく分からない中で、銃捕獲の判断をハンターに仰がれ困る。
- ・ 問題になっていないクマもいるので、ただ「駆除」というのは納得できないが、人里周辺対応として、撃つ、撃たないの判断は整理するときに来ている。
- ・ 市街地に隣接するクマの生息地に対してどういうポリシーで対応するかを、行動にプラスしてゾーニングの二つの軸で考えて、決めておくことが重要。
- ・ 狩猟者の多くがクマを捕った経験がない、見たこともない状況。経験がほとんどない中で狩猟期間を延長すると狩猟事故が増加するという事は明白。
- ・ 春グマ経験者が非常に少なくなっており、指導者の下でハンターを育てなければ、対応ができなくなる。今が先人の技術を伝承できる最後の時期。
- ・ 市街地などでクマに対しアクションを起こすに際し、駆除できる人が少ないという状況はかなり差し迫っており、かなり危機的な状況だと思う。
- ・ 北海道全体としてヒグマ猟ができる人を育てていくことを示し、春グマに圧力をかけて、人家近くに出てくるクマを減らしていくことが必要。
- ・ クマを撃てる人がいない中で、困っている地区があるのであれば協力していくという体制をつくる必要がある。

### <方策の検討>

- ・ 狩猟者登録（猟銃）者数、その内ヒグマ猟をしている人数を把握してはみてはどうか。
- ・ 今、圧力をかけられる人が少ない状況。クマは逆襲してくるので 技術や知識を備える訓練をしたハンターつくらないと圧力をかけることはできない。
- ・ 春クマ駆除の経験者の技術を伝承する最後の時期に直面しているので、許可捕獲のケースの枠を広げ、人材育成をしながら対処していくことが必要。
- ・ 狩猟期間を延長した場合、北海道に狩猟許可を出している本州の人も対象になり、きちんと管理できるのかという問題がある。
- ・ 穴狩りをしないようにするのであれば、1月31日で一度終了し、クマが穴から出てくる時期を見計らって狩猟期間を設定することが考えられる。  
エゾシカ捕獲が4月1日からスタートし、ハンターはシカ駆除に取られるので、クマは3月中旬から4月1日の時期に対策を集中すべき。  
エゾシカの許可捕獲期とクマの狩猟捕獲期が混在すると事故時にその原因が曖昧になる懸念があるので、両獣の許可期と狩猟期は合わせたほうがよい。
- ・ 市町村境界などの自由度の高い狩猟期間を12月、3~4月に設定し、春グマ経験者を講師に、捕獲から解体までを含めた実技研修を行うべき。
- ・ 許可捕獲は意欲のある人がはじかれる可能性もある。人数を制限されることなく幅広くチャンスを与えるためにも、狩猟期間の延長も検討すべき。
- ・ 狩猟では、メッシュ毎に糞や足跡を報告することになっているので、残雪期の一定期間に報告の徹底をすればクマの分布の変化が評価ができるのでは。
- ・ 道庁には、このヒグマ捕獲にあたり、事故を起こさないためのマニュアルづくり、講師への謝金などの予算措置を検討されたい。
- ・ 実施にあたっては、農地や市街地に隣接する国有林に入れるようにすること、さらに除雪、スノーモービルの乗入規制緩和といった援助策が必要。
- ・ 次世代が育っていないという問題があるので、自由意思に頼るより、事業化など費用をかけて、体制を整えていくことを考えたほうがよい。
- ・ 許可捕獲で実施する場合、技術者育成捕獲というこれまでの名称を、本部会の目的に沿ったものとした方が理解が得やすいと考える。

### <総論>

- ・ 生息推定の中央値が1万頭で、年率10%で増えるとして、それを基にすると毎年1,000頭ずつ生まれているが、そこまで捕れていないので増えている。
- ・ 捕獲者はどんどん減っているということで、これまで経験していない新しい局面にある。
- ・ 今までと同じ許可捕獲ならば検証できるような効果は得られないと思われ、自由度があって柔軟な制度にしなければ、誰も乗ってくれないと思われる。
- ・ 共通しているのは、クマの数が増えてくる中で、捕獲の担い手が減少していく、危機感があるということ。
- ・ まずは、すぐに打てる対策を行ない、引き続き手続に時間を要す狩猟期間の設定についても検討を継続していく。
- ・ 当面は、限られた人数のベテランの方々のお力を借りて、次の世代を育てていけるような方向で。

## 2 検討対象、効果の検証 等

### ～第2回検討部会の意見～

- 検討対象
  - ・ 被害ケースを再整理する必要
  - ・ 低密度化も目的とするかどうか
- 効果の検証  
具体的にすべき
- その他  
親子連れ、穴狩りの捕獲の是非

# 検討対象

## <ご意見を踏まえた整理>

ヒグマの出没環境	人里（人の生活圏）	農地	森林
懸念される被害形態	人に対する警戒心が薄い個体の人里への出没による事故	農作物を餌とした農業被害	山菜採りや狩猟者などの事故
主な対策	侵入時の排除 人に恐れを抱かせる 人への普及啓発 等	防除と排除 等	人への普及啓発 等
捕獲圧による期待される効果	高い	限定的（防除が重要）	低い

## < 本検討でターゲットとすべき個体や地域 >

(案)

主に、人里周辺に生息し、人に対して警戒心が小さく、人里へ出没する個体



残雪期に、主に人里（市街地や人家周辺などの人の生活圏）の周辺で捕獲による圧を高め、人への恐れを植え付け、人里への出没の抑制を図る

※ 捕獲圧をかけることで生ずる低密度化は副次的なもので主たる目的とはしない

- しっかり取り組んだ市町村をモデル地域とし、人里への出没状況の経年的な変化をもとに、取組に対する効果について、検証を行う。
- また、ヒグマ管理計画において行うこととしている問題個体数指標（市町村等からの出没情報に基づき問題個体の推定しそれを指標として評価を行う）を用いて、全道的な評価の参考とする。
- 検証方法は、人を恐れない行動を取る問題個体や人の生活圏への出没の増減などを想定。

### 親子連れや穴狩りの捕獲の是非について

(案)

人材育成も含めた春期管理捕獲を数年間限定的に実施する場合を想定

#### ■ 親子連れ

狩猟者に追われる機会を増やすこと、また、人材育成を行うために捕獲機会を増やすことを考慮し、特に制限は設けないこととする。

なお、ヒグマ管理計画に定めるメスグマの捕獲上限数等により、捕獲頭数の制限を管理する。

#### ■ 穴狩り

必ずしも問題個体への捕獲圧にならないため、原則行わないとするが、人里周辺の出没を抑制する観点から、人里の周辺に隣接する森林等に冬眠穴を発見した場合は、問題個体による事故を未然に防止する観点から、穴狩りを妨げない。

# 3 方策の検討

# 問題個体の発生を抑制するための方策の検討

## <ご意見の概要>

- 共通
  - ・ 生息数が増えている背景のもと、人里出没対策とヒグマに対応できる人材の育成は待ったなしの急務
  - ・ まずは、すぐに打てる対策を実施し、併せて、手続に時間がかかる狩猟期間の見直しも検討を進める必要
- 管理捕獲
  - ・ 比較的安全な残雪期に一定の管理のもと、人里出没抑制及びヒグマ捕獲技術の継承を図ることは妥当
  - ・ ハンターが参画しやすい工夫が必要。効果を上げるためには、事業化などのインセンティブも必要
- 狩猟
  - ・ 許可捕獲はエリアが限定される問題。人材育成の観点から、行動の自由度が高い狩猟期間の設定も望ましい
  - ・ 事故が増える懸念。延長した期間に地形に不慣れな道外ハンターが山林内で狩猟を行うと、行動の管理・把握が難しい
  - ・ 効果の検証方法が課題。狩猟報告の活用によりクマの分布の変化を評価できる可能性
- その他
  - ・ 国有林内での狩猟や許可捕獲が可能となるよう管理者との調整、部分除雪、スノーモビル乗入等の緩和策が必要
  - ・ 今後は広域的に協力する体制づくりも必要
  - ・ 事故防止のマニュアルづくり、人材育成の講師への謝金

## 方策案

### ① 速やかに取り組むことができる許可捕獲を強化

- ・ 人里への出没抑制と併せてヒグマへの対応体制の強化を図るため、残雪期に管理捕獲を実施
- ・ 効果が現れるのは一定期間必要と考えられることから、数年間かけ効果を検証

### ② 並行して、狩猟期間の見直し

鳥獣保護管理法上の手続（ヒグマ管理計画との整合の確保）等も考慮し、①の実施と並行して期間の見直しを進める